

# 城原川だより 79号 城原川を考える会

【ダムに抛らない治水をめざすには】

2018 10. 19日(金)

次回発行予定 2018年 11月16日(金)



78号では各霞堤や野越の働きについて書きましたが、今回からはそれぞれの姿と問題点などを記載します。

まず、城原川の一番下流にある9号野越しです。



左が下流



かなり土手が低くなっています。



溢れた水が通る道。これをたどっていくと、住宅

地に行きつきます。そこで水路は分岐しています。



この住宅地の北東角で南と西にながれる水路に分岐

住宅地はかさ上げして造成されています。9号野越から水が溢れときはここにぶつかり、この水路に乗り南に流れ中地江川に落ちていくと思われます。本来は遊水地だった場所が宅地化されるのはとても危険なことだと言えます。

水路は現在灌漑用水として管理されているものと思われます。かつては水防も水利用も地域に密着したものでした。川や水路、堀にはいつも地域の手が加えられ、育まれていました。今では川は国交省、灌漑用水路は農水省というように地域から離れてしまっています。それが県や市であっても、たて割りの組織にわけられていて、すべてをひっくり返して土地を見る目、ふるさとの土地柄を理解する力が消えようとしています。総合的な街作り、宅地開発のありかたが問われるところです。次号では7号8号野越をとりあげます。

## もし避難所生活になったら

今年西日本では32年間で最も寒い冬に始まり、2月5日に自衛隊のヘリが千代田町嘉納に墜落という思いもしない事故に驚き、6月18日の大阪府北部地震、台風7号から刺激された梅雨前線による西日本豪雨災害、神崎市にも何度も特別警報が出ました。また三重県に上陸した台風12号はまさかの西進、近畿、中国、瀬戸内海を抜け福岡市に再上陸という想像を超えた事象が続きました。9月6日には北海道胆振地震が起き、崩壊した山肌が放映されるたびに自然のエネルギーのすさまじさを感じずにはいられませんでした。台風も例年のない多さで勢力が強いまま日本列島に襲いかかりました。

まさに災害列島を実感した一年でした。

それぞれの被災地では今でも避難所暮らしをよぎなくされている方々が多くいらっしゃいます。その避難所はずいぶん暮らしにくいようです。

たとえば、二年前に起こった熊本地震では、佐賀新聞 10/13 「現論」の斎藤美奈子の記事によると、地震そのもので直接亡くなった人は50名ほどですが、その後4倍の200人越えの人が災害関連死と認定されているということです。避難所の劣悪な環境を嫌って避難そのものを嫌う人や、エコノミークラス症候群などのリスクを承知で車内泊を選ぶ人も多いという、助かった命がその後の避難所生活で奪われる現実があるのです。国際的な最低基準「人道憲章と人道対応に関する最低基準」通称「ソフィア基準」では、給水、衛生、

シェルター、居住地などの分類別に最低基準を示しているそうです。それによると、トイレは20人に1つ。女性用のトイレの個室数は男性用の3倍。シェルターは世帯ごとに覆いのある生活空間を確保し、一人あたりの床面積は最低3・5㎡、畳約2枚分です。

日本の場合はどうかと言うと、トイレは50人にひとつ。プライベート空間は二畳に4人から2人という狭さです。床にごろ寝状態や、プライバシーのなさ、など様々な問題が挙げられています。「**避難所の質の向上は生命と人権にかかわる問題なのだ**」という意識をもつべきです。

### 佐賀県が発表しているモデル避難所整備指針を見てみると

○ 避難住民数は、地域防災計画の避難所基準「3.3㎡に2人（畳1枚に1人の割合）」に基づき算出します。

例：1,000㎡の体育館の場合：1,000 ÷ 3.3 × 2 ≒ 600人

○ 飲料水の数量は、地域防災計画の飲料水基準「1人1日3ℓ」に基づき算出します。

○ 食料品のうち、要援護者配慮品目の数量は、県人口に占める4歳以下及び70歳以上人口の割合（20%）から算出します。

○ 避難生活が続くと、温かい食べ物が食べたいなど避難住民のニーズは変化してくることから、多種多様な備蓄が望まれます。

**とあります。一人当たりの空間が狭いことや食事が乾パンやアルファ米などの非常食であることがわかります。**

### トイレについては

避難住民数に応じた数の仮設トイレを設置します。

例：500㎡の公民館で300人を収容し、3日間の避難を想定した場合

〔汚水量算定〕 5ℓ/人・日 × 300人 × 3日 = 4,500ℓ

〔仮設トイレ数算定〕 4,500ℓ ÷ 500ℓ（トイレ容量）－ 併設のトイレの個室数 = 9個とあります。およそ33人に1つのトイレということになります。男女の使用頻度や時間への配慮はないようです。

下の写真は避難所先進国イタリアのテント型の食堂スペースと食事。奥に厨房機器を積んだトラックが横付けされ調理師が料理しています



## 第 117 回定例会資料

新聞記事コピー 佐賀新聞 8/9 論説 西日本豪雨 1 カ月 市町は対応の事後評価を  
佐賀新聞 8/10 佐賀の政治・経済欄 西日本豪雨被害額 155 億円  
佐賀新聞 8/27 事件・社会欄 西日本豪雨 水門閉鎖周知に課題  
佐賀新聞 8/30 国交省概算要求 城原川ダム 6.8 億円  
水害対策 33%大幅増  
朝日新聞 9/1 インタビュー広島県知事 2 度の豪雨被害インフラ能力  
越す自然の脅威痛感  
佐賀新聞 9/4 視標 多発する異常気象 温暖化が影響押し上げる  
毎日新聞 9/4 記者の目「耐越水堤防」封じる茶番  
西日本豪雨と国の破堤防止対策  
毎日新聞 9/5 記者の目 複合的連鎖へ想像力を  
西日本豪雨に見る水害対策  
Hanada-2018 年 10 月号対談 藤井 聡 大石久和  
世界 2018. 10-P164 2 年以上も隠ぺいされていた大浦湾の軟弱地盤問題  
マヨネーズなみの地盤の上に軍事基地？  
城原川だより 78 号  
虹の松原再生・保全活動について 唐津環境防災推進機構 K A N N E の紹介

第 118 回定例会 11 月 16 日（金）

神崎市中央公民館

第 119 回定例会 12 月 21 日（金）

神崎市中央公民館

参加費用（資料代） 200 円

月曜勉強会（祝祭日を除く毎月曜日）

10：00～12：00

千代田町福祉センター

皆様のご参加お待ちしております

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神崎市千代田町境原 282-12

電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神崎市神埼町城原 1877-1

電話 0952-52-2827

Mail : [teaho74@yahoo.co.jp](mailto:teaho74@yahoo.co.jp)

ブログ ふるさとの川城原川 [livedoor.jp/ jyubarugawa](http://livedoor.jp/jyubarugawa)

<https://ameblo.jp/jyoubarugawa/>

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしお寄せ下さい。

文責 佐藤 悦子